

今週のトピックス

2020年5月20日編集

〇ツキノワグマとの共生・共存を考える！

有峰はブナやミズナラが分布するツキノワグマの恒常的生息域です。5月20午前10時20分頃、西岸線冷タ谷遊歩道南口の入口付近で今年初めてツキノワグマの子熊に出会いました。子別れ後の個体だったのでしょうか。付近に親熊がいる様子はありませんでした。昨年はブナが不作だったためでしょうか？ 里山では熊の目撃情報や被害が多かった年でした。昨秋、有峰森林文化村でも、こうした状況下、有峰地区の熊対策会議実施に合わせ、富山県立山カルデラ砂防博物館の学芸員白石俊明氏を招聘し、「ツキノワグマと共生はできるのか」と題したご講演を戴き、ツキノワグマの生態や人身事故の発生時期、その対策等について研修を実施しました。その後、登山者や訪問者への注意喚起のための看板設置や職員によるパトロール等を行いました。昨年は、有峰地区でのツキノワグマとの共生・共存を考える大変良い機会となりました。一方、西岸線の道路沿いや冷タ谷遊歩道、南岸線の道路沿いや東西半島遊歩道でミズナラのクマ棚が多く発見されました。新緑の今年5月、ミズナラで多くのクマ棚を再発見できました。



カラマツの幹に前足を掛け、静止しこちらの様子を伺うツキノワグマの子熊

(5月20日冷タ谷遊歩道南口の入口付近で撮影)



静止しこちらの様子を伺うツキノワグマの子熊
(5月20日冷タ谷遊歩道南口の入口付近で撮影)



ミズナラのクマ棚

(冷タ谷キャンプ場にて5月19日撮影)



ミズナラのクマ棚

(西岸線の道路沿いにて5月19日撮影)



ミズナラのクマ棚と巡回中の指導員
(5月20日と東西半島遊歩道にて撮影)



クマ注意喚起のために設置された看板
(5月19日大多和峠の公衆用トイレにて撮影)



クマ注意喚起のために設置された看板
(5月20日冷夕谷キャンプ場公衆用トイレにて撮影)